

日本原子力学会 原子力安全部会

福島第一原子力発電所事故
に関するセミナーシリーズ
第4回

2012年8月10日

(於)東京、東京大学工学部11号館

セミナーの趣旨

- 福島事故に関し、「何が悪かったか、今後何をすべきか」について議論する。原子力学会はわが国のアカデミアを構成する組織であることを踏まえ、学会としてあるいは原子力安全全部会として何をすべきかの観点を重視する。
- 原子力は多くの技術の総合であり、福島事故を含め、事故は技術分野の隙間で起きることが多い。セミナーの目的は、事故そのものの解説ではなく、事故によって示された課題を踏まえて今後より安全な原子力を確立していくために、技術分野間あるいは産官学間の相互理解を進めることを目的とする。

本日のプログラム

司会： 関村直人（原子力安全部会副部会長、東京大学）

（開会挨拶及び趣旨説明）

13:35～13:40 「第3回セミナーの概要」

松井務（原子力安全部会幹事、中部電力）

13:40～14:10 「福島第一原子力発電所事故について（4号使用済み燃料プールを中心に）」

宮田浩一（原子力安全部会幹事、東京電力株）

14:10～14:30 討論

論点整理： 阿部清治（原子力安全部会部会長、JNES）

14:30～14:50 休憩 及び 報告内容に関する質問

14:50～16:40 「福島第一事故の教訓を反映した今後の安全確保の考え方」守屋公三郎（日立GEニュークリア・エナジー株式会社）

討論等

（次回以降のセミナー案内及び閉会挨拶）